



オカムラ食品工業

2024年6月期 第1四半期 決算短信補足資料

2023年11月14日

株式会社オカムラ食品工業 (2938)



説明のポイント

I. 2024年6月期 第1四半期業績（連結）

- Q1業績サマリー
- 要因別営業利益増減（連結全体）
- セグメント情報サマリー
- セグメント別売上高増減
- セグメント別営業利益増減
- 要因別セグメント利益増減（養殖事業）
- 要因別セグメント利益増減（国内加工事業）
- 要因別セグメント利益増減（海外加工事業）
- 要因別セグメント利益増減（海外卸売事業）
- 地域別セグメント利益増減（海外卸売事業）
- 貸借対照表増減サマリー
- 棚卸資産増減内容
- 設備投資の進捗状況

II. 2024年6月期 通期業績見通し（連結）

- 通期業績予想サマリー
- 通期予想に対するQ1進捗率

III. 参考資料

- 四半期ごとの季節変動について（売上高）
- 四半期ごとの季節変動について（セグメント利益）
- 養殖事業を行うデンマーク子会社における未実現利益の計上
- プランティックサーモンのスポット価格（大豆市場）

（注）当資料内に記載されているFY23 Q1の数値は参考値です。
監査法人の四半期レビューを受けた正式な数値ではないことをご
了承ください。

2024年6月期 第1四半期実績

売上高

- Q1時点では、売上高は総じて堅調に推移。
- 特に養殖事業においては、前期に水揚げした繰越在庫の販売が前倒しで進んでおり、それがQ1売上を押し上げている
- 売上の季節変動がある点は注意が必要（参考資料1参照）

営業利益

- 営業利益は、国内加工と海外卸売の減益が影響し、全体でも前期比で減益。
- 国内加工の減益は魚卵相場の調整局面に起因するもの。海外卸売の減益はヒト・モノへの投資の影響が大きい。
- 養殖は国内売上が前倒しで進んでいる影響や円安によって海外利益の円建て表示が膨らんだ影響で、現時点では前年同期比で増益。
- なお、Q1はIFRS（国際財務報告基準）の影響で利益が先行して計上される点は注意が必要（参考資料3参照）

2024年6月期 通期業績予想

- 国内養殖量の拡大と海外市場の伸びを背景に、売上高は前期比増収を見込むものの、相場調整局面にある影響で利益率は前期比ダウン、前期比減益を見込んでいる。
- Q1の進捗率を見るうえでは、上記IFRSの影響、養殖事業の販売前倒し、円安による海外利益の嵩上げなどには注意が必要
- 2023年9月27日に発表した通期業績予想の変更はしていない。

設備投資の進捗

- 当社の成長戦略である国内養殖量の拡大に向けて、ボトルネックとなっている中間養殖場への設備投資を計画。現状においては予定通り進捗。



I. 2024年6月期 第1四半期業績 (連結)



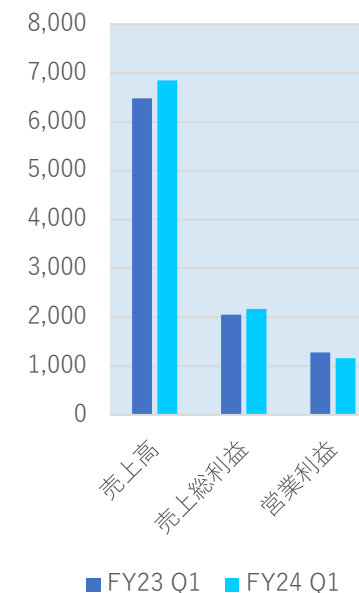
Q1業績サマリー

- Q1時点では、売上高は総じて堅調に推移。
- 営業利益は、国内加工と海外卸売の減益が影響し、全体でも前Q1比で減益。

(単位：百万円)

	FY23 Q1	FY24 Q1	増減	増減率	FY24 通期予想	対前年	
						増減	増減率
売上高	6,483	6,849	366	5.6%	32,598	3,659	12.6%
売上総利益	2,052	2,172	120	5.8%			
営業利益	1,277	1,163	-113	-8.9%	1,949	-1,238	-38.8%
経常利益	1,475	1,291	-183	-12.5%	1,775	-1,769	-49.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	979	918	-60	-6.2%	1,234	-1,151	-48.3%
<参考>							
生物資産公正価値評価を 除く営業利益 (利益率)	674 (10.4%)	630 (9.2%)	-44 (-1.2%)	-6.5%			

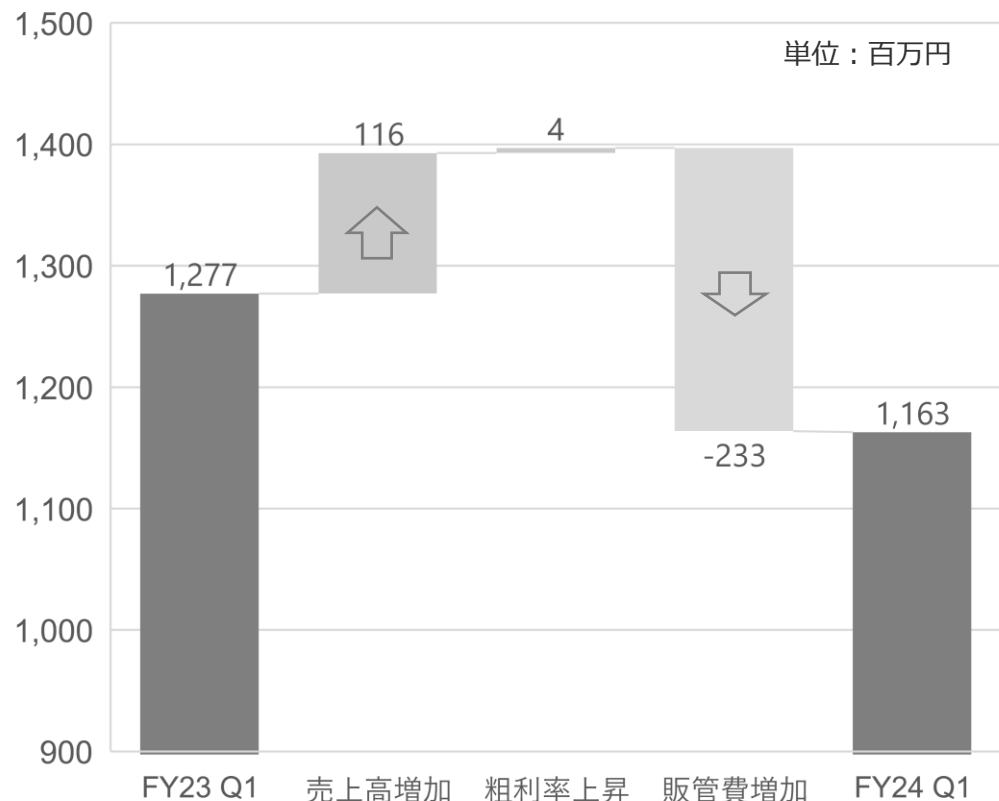
前年同期比較



要因別営業利益増減（連結全体）

- コロナ禍後の需要拡大により売上が拡大し利益が増加するも、事業拡大・強化を行う海外卸売事業等で販管費が増加し、営業利益は前年同期より113百万円減少した

要因別営業利益増減



増減補足説明

売上高増加による利益増

前年同期比+116

売上高が366増加したことにより、営業利益が116増加

粗利率増加による利益増

前年同期比+4

相場下落局面などで各事業の利益率は低下したが、利益率の高い養殖事業の利益割合が高まったため粗利率は+0.1%上昇、この結果として利益4増加

販管費増加による利益減

前年同期比△233

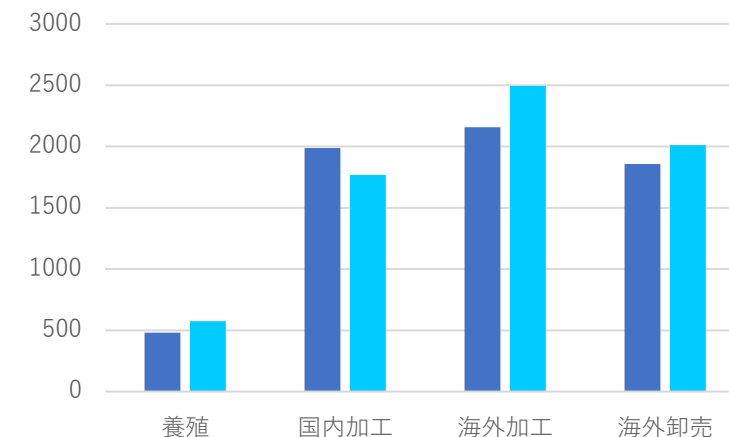
事業拡大・強化を行う海外卸売事業、養殖事業を中心に販管費（人件費、減価償却費、保管料など）が増加し営業利益が233減少

セグメント情報サマリー

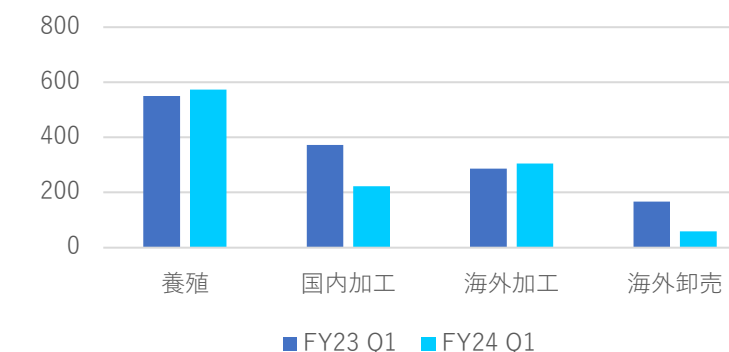
(単位：百万円)

	FY23 Q1	FY24 Q1	増減	増減率
外部売上高	6,483	6,849	+ 366	5.6%
養殖	480	574	+ 93	19.4%
国内加工	1,987	1,769	△217	△10.9%
海外加工	2,158	2,493	+ 334	15.5%
海外卸売	1,857	2,012	+ 155	8.3%
セグメント利益	1,277	1,163	△114	△8.9%
養殖	551	574	+ 22	4.1%
国内加工	373	223	△150	△40.2%
海外加工	287	305	+ 18	6.3%
海外卸売	167	59	△108	△64.7%
調整額	△103	0	104	100%

外部売上高



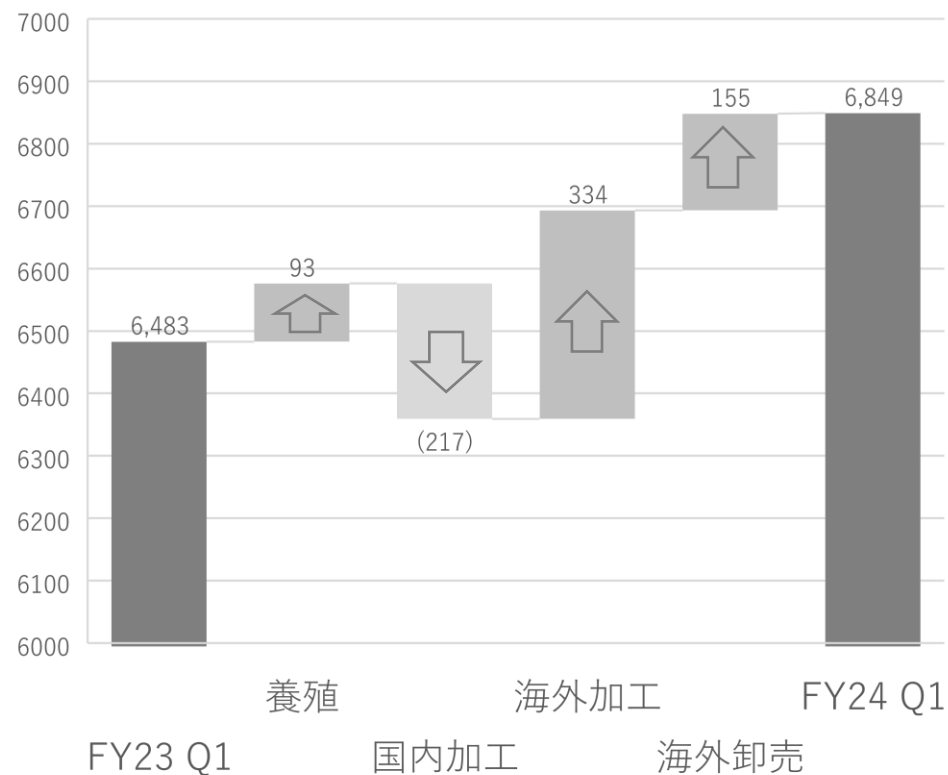
セグメント利益



セグメント別売上高増減

セグメント別売上高増減

単位：百万円



増減補足説明

養殖

前年同期比+93

国内で期首繰越在庫が前年同期に比べ増加し、当期Q1はこれらが前倒して売られたことにより売上高が増加した

国内加工

前年同期比△217

単価が低い筋子の販売が特売等で増加した一方で、原料価格や販売価格が高騰したいくらの販売が減少し、全体でも減収

海外加工

前年同期比+334

国内回転寿司は回復基調、海外は需要が大きく伸びており国内外で売上は大きく増加

海外卸売

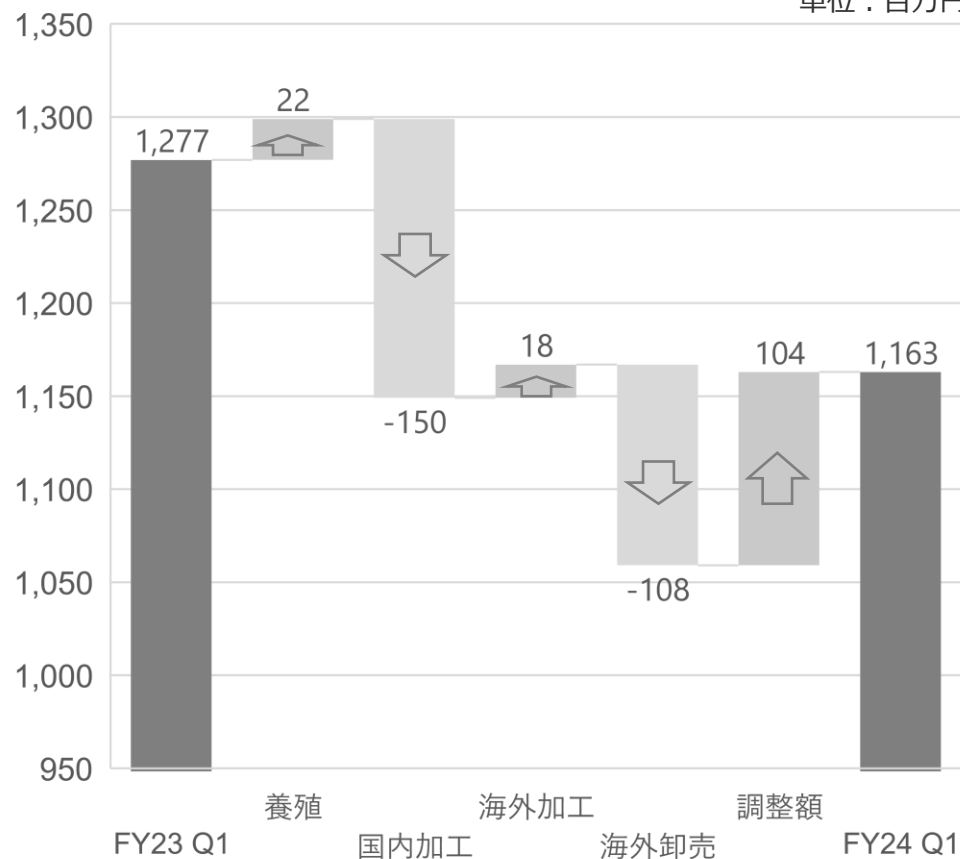
前年同期比+155

コロナ禍後、販売は順調に推移。円安による円建て表示額の増加が約1億円あり。

セグメント別営業利益増減

セグメント別営業利益増減

単位：百万円



増減補足説明

養殖

前年同期比+22

生物資産公正価値評価益が0.7億円減少したものの、利益率が高い製品が先行して売られたことや円安による円建て表示額の増加(約0.5億円)があり、利益増加。

国内加工

前年同期比△150

前期までの高騰相場からの調整局面。前期仕入れの高単価在庫と調整過程にある販売価格がぶつかり、利益率が大幅に低下。

海外加工

前年同期比+18

国内外で売上は大きく増加するも相場高騰から価格転嫁が難しく利益率低下。

海外卸売

前年同期比△108

事業拡大・強化に伴うヒト・モノ関連費用の増加などで減益

調整額

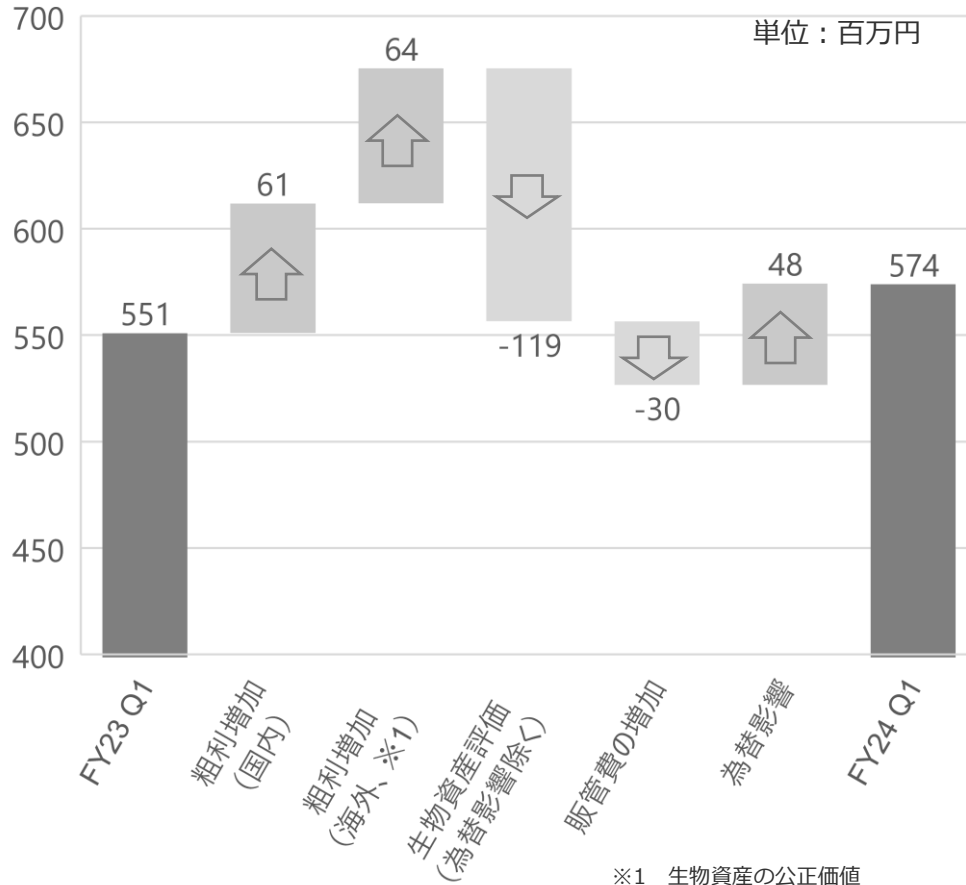
前年同期比+104

在庫の未実現利益控除額の増減

要因別セグメント利益増減（養殖事業）

Q1には利益率が高い製品が先行して売られたことや為替影響から、養殖コスト上昇下でも利益は22百万円増加した

セグメント利益増減



※1 生物資産の公正価値評価と為替影響除く

増減補足説明

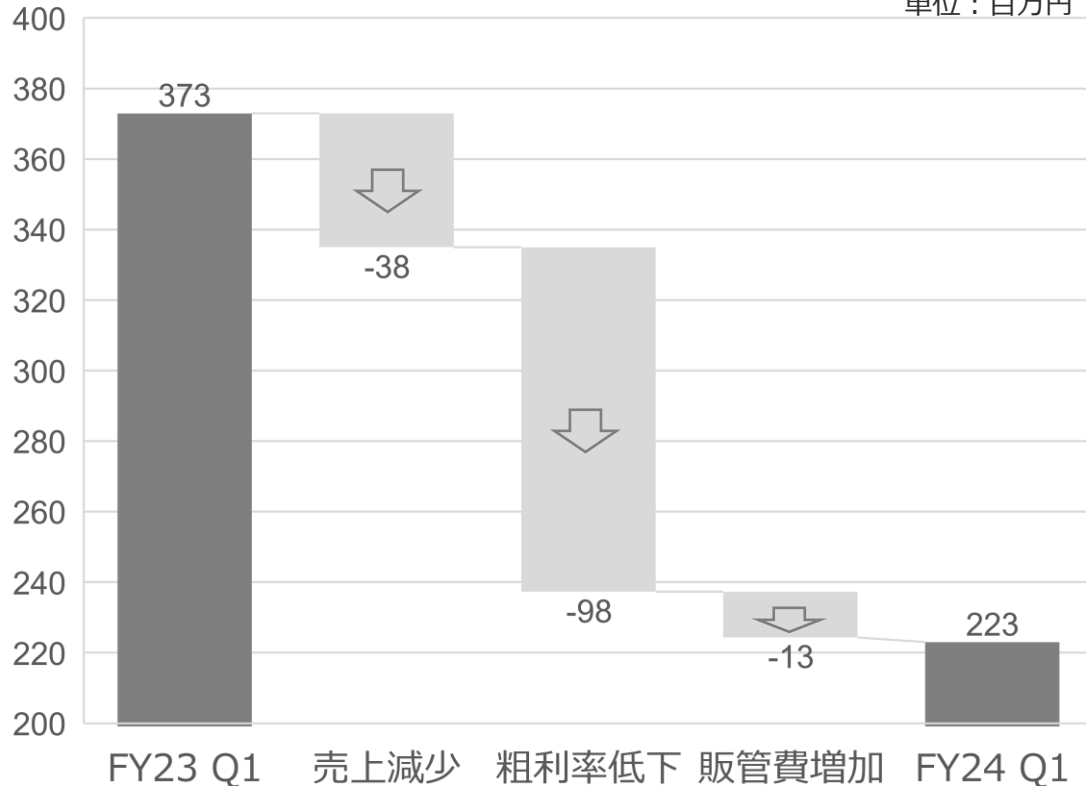
- 粗利増減（国内）** 前年同期比 + 61
 水揚は4-6月のため、Q1現在は前期に水揚した冷凍在庫を販売中。前期末の繰越冷凍在庫の前倒し販売が進み粗利増加
- 粗利率増減（海外）** 前年同期比 + 64
 単価・利益率が高い魚卵について、販売早期化等により利益が拡大
- 生物資産評価** 前年同期比 Δ 119
 見込販売価格の上昇によるプラス影響があるものの、見込養殖コストの上昇等から生物資産評価益は減少
- 為替影響** 前年同期比 + 48
 為替レートは前期Q1比11%円安。これによりデンマーク子会社の円換算利益が48増加

要因別セグメント利益増減（国内加工事業）

前期の高騰相場からの市場在庫・価格の調整過程にあり、売上が減少するとともに利益率が低下し、セグメント利益は前年より150百万円減少した

セグメント利益増減

単位：百万円



増減補足説明

売上高減少による影響

前年同期比△38

前期に魚卵価格が高騰し消費がにぶっていた状況で2022年秋鮭が豊漁となり市中在庫が大きく増加、主力のますいくらの販売が鈍る傾向が継続。より安価な他のいくら製品に販売を切り替えたものの売上高が減少。これにより、売上総利益は△38。

粗利率低下による影響

前年同期比△98

国内加工事業では、魚卵収穫時期の関係上、主に秋に1-1.5年分の原料仕入を行う。そのため、仕入と販売のタイムラグが大きく、相場の変動局面では販売価格が先に低下し、一時的に利益率が低下するというサイクルが生じる。当Q1はこのサイクルにより、前年同期に比べ粗利率大幅低下。

販管費増加による影響

前年同期比△13

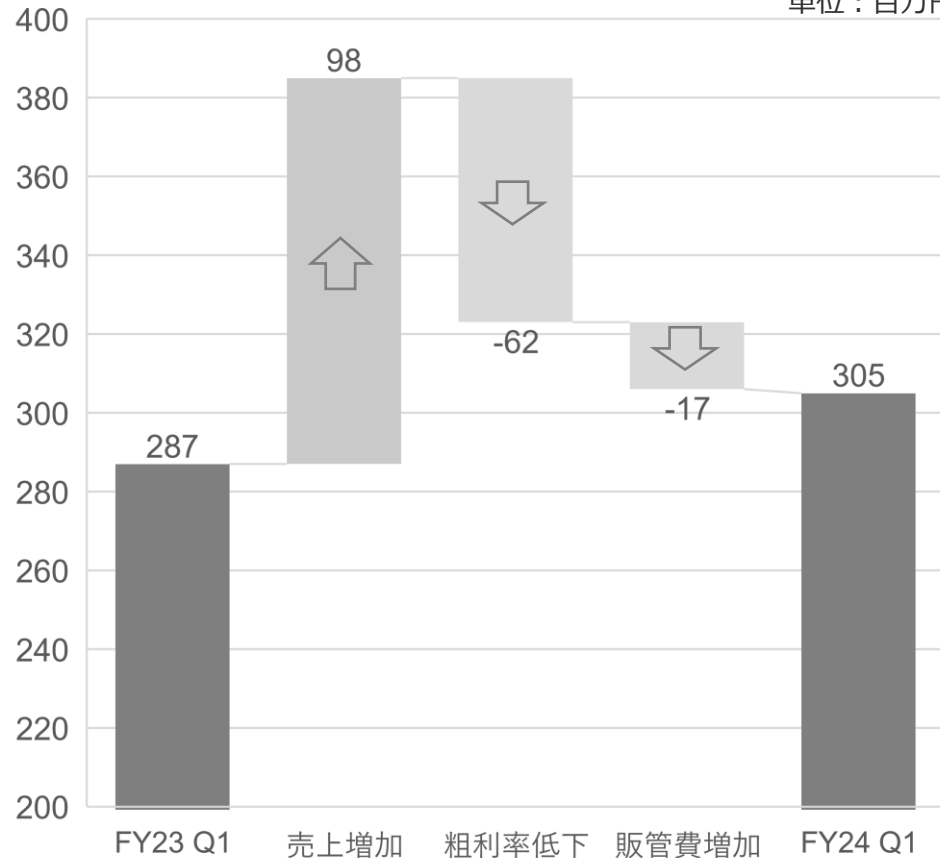
人員増など

要因別セグメント利益増減（海外加工事業）

主力のオカムラ食品工業ではコロナ禍後の販売拡大により国内外で売上は大きく増加するも、高単価在庫の価格転嫁が難しく利益率は低下。販管費増もあり、セグメント利益は18百万円増に留まる

セグメント利益増減

単位：百万円



増減補足説明

売上高増加による影響

前年同期比+98

世界的にサーモン相場の高止まりが続く中、国内・海外ともに販売好調。特に海外ではコロナ禍後消費が急速に回復。

粗利率低下による影響

前年同期比△62

焼成品などでは利益率が上昇する一方、生食用サーモンスライス品などでは、相場高騰過程で前期に比べ当期は十分な価格転嫁が困難になり、全体の粗利率が低下

販管費増加による影響

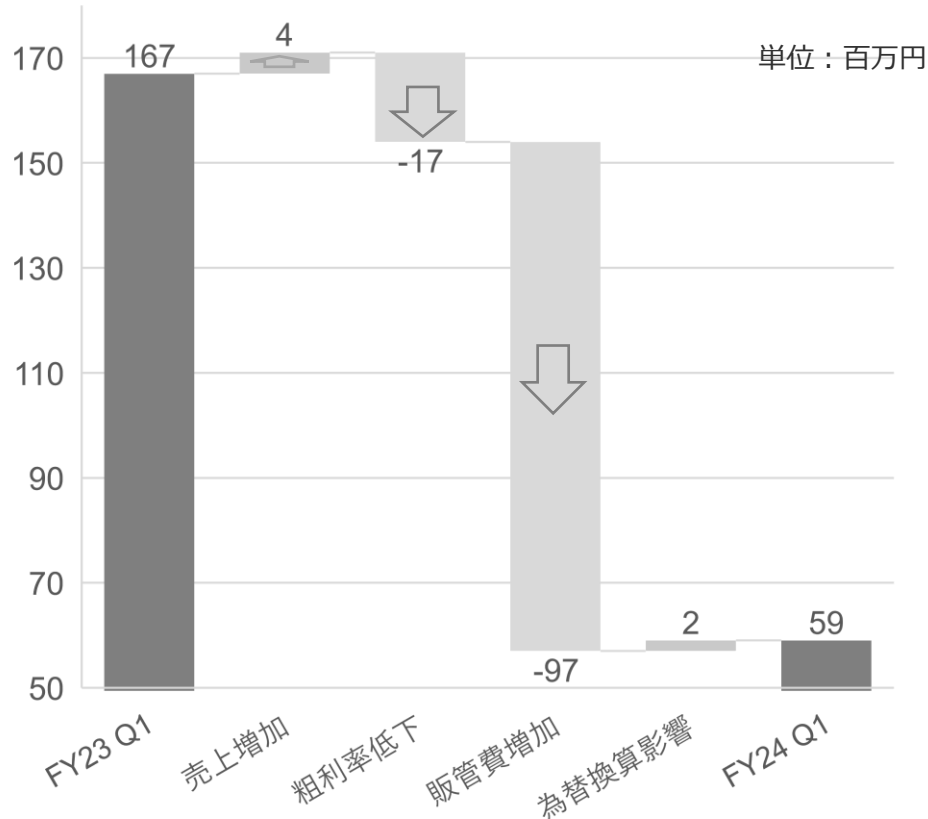
前年同期比△17

販売数量増加に伴い倉庫関連費用などが増加

要因別セグメント利益増減（海外卸売事業）

コロナ禍後の東南アジアの需要拡大により売上は増加するも、粗利率低下、事業強化・拡大に伴う人件費、倉庫費用、償却費増加等によりセグメント利益は△108

セグメント利益増減



増減補足説明

売上高増加による影響

前年同期比+4

前期あった大口のスポット販売がなくなったものの、コロナ禍後の東南アジアにおける需要拡大が上回り、売上高・利益ともに増加

粗利率低下による影響

前年同期比△17

仕入価格上昇、利益率の高いスポット取引がなくなったことなどで全体の粗利率が低下

販管費増加による影響

前年同期比△97

事業強化・拡大に伴う人件費、倉庫費用、償却費増加による影響。また、シンガポールのサーモン加工工場について稼働前のトレーニング費用を販管費処理

為替換算影響

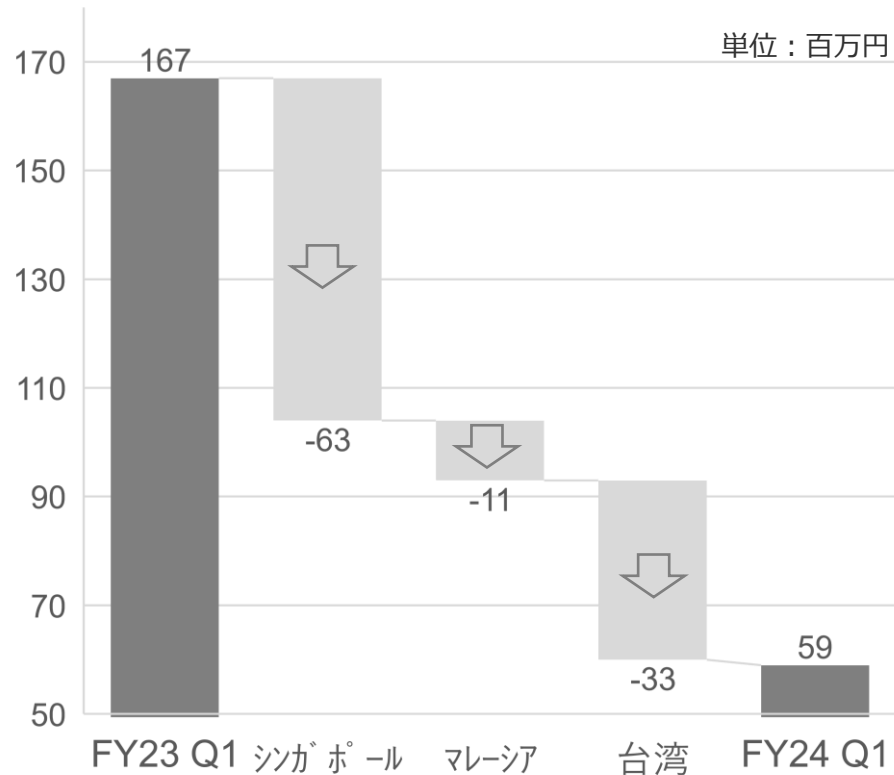
前年同期比+2

主にシンガポールで前期に比べ円安となった影響

地域別セグメント利益増減（海外卸売事業）

- 事業拡大・強化に伴いヒト・モノ関連費用が増加し減益

セグメント利益増減



増減補足説明

Okamura Trading Singapore（シンガポール） 前年同期比△63

- 販売はコロナ禍後の海外向けを中心に順調に推移（売上前年同期比+7.3% 現地通貨ベース）
- 一方で、事業拡大に伴う人件費、倉庫費用、償却費増加等に伴い販管費増

Okamura Trading Taiwan（台湾） 前年同期比△33

- 前期Q1には大口のスポット販売あり
- 当期は実質2年目に相当し、営業活動が進展。配送エリア拡大などに伴うコストが増加

貸借対照表増減サマリー

（単位：百万円）

資産	2023年6月末	2023年9月末	増減
流動資産	22,581	30,975	+ 8,393
現金及び預金	2,062	6,547	+ 4,484
売上債権等	3,235	3,166	△69
棚卸資産	14,785	18,376	+ 3,590
その他	2,498	2,885	+ 387
固定資産	7,529	8,072	+ 543
有形固定資産	7,049	7,615	+ 565
無形固定資産	66	68	+ 2
投資その他の資産	414	389	△24
資産合計	30,111	39,048	+ 8,937

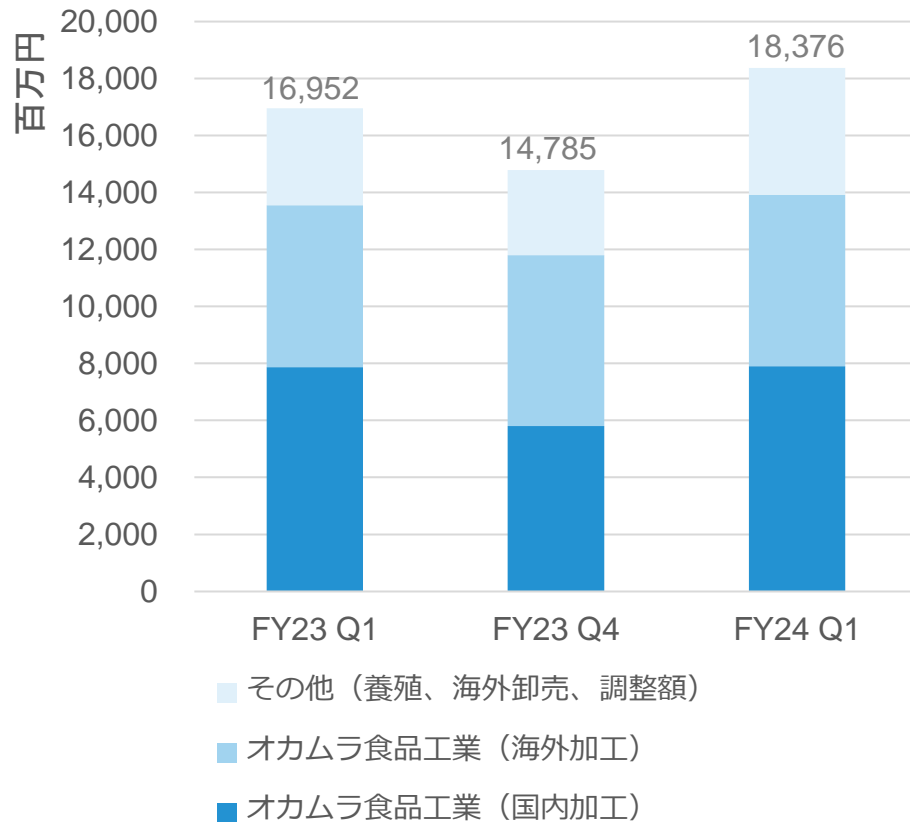
負債	2023年6月末	2023年9月末	増減
流動負債	15,439	21,137	+ 5,698
仕入債務	1,067	1,674	+ 606
借入金	10,947	15,652	+ 4,705
その他	3,424	3,810	+ 385
固定負債	4,703	5,201	+ 497
借入金	3,422	3,615	+ 193
その他	1,281	1,586	+ 304
負債合計	20,143	26,338	+ 6,195
純資産			
純資産合計	9,968	12,710	+ 2,741

主なトピック：季節変動を主要因とする棚卸資産増（P.16参照）、上場時の公募増資、設備投資の進捗（P.17参照）

棚卸資産増減内容

国内加工事業の魚卵仕入と海外養殖の評価替・魚の生育等により、棚卸資産は前期末より3,590百万円増加した

棚卸資産残高推移



増減補足説明

オカムラ食品工業（国内加工） 前期末比+2,094

- 漁獲時期の関係上、国内加工事業の原料（魚卵）仕入は8月～11月に集中。Q1は仕入シーズンが始まり、在庫が膨らむ。

オカムラ食品工業（海外加工） 前期末比+26

- 海外加工事業の原料はサーモンとサバ。サーモンの仕入は通年行われる。サバはQ2で年に一度の仕入が生じるが、Q1のこの時期は大きな変化はない。

その他 前期末比+1,470

- 海外養殖ではQ1で生物資産の公正価値評価により評価益計上。加えて、水揚げに向けて魚の生育に伴う養殖魚簿価の増加等により、前期末比+1,315。

設備投資の進捗状況

- 当社の成長戦略である国内養殖量の拡大に向けて、ボトルネックとなっている中間養殖場への設備投資を計画。現状においては予定通り進捗。
- 日本サーモンファーム(株)の今別中間養殖場第2・第3水槽は23年9月に工事完了し、10月に稼働開始。
- これにより成魚9百トン程の増産が可能となる。

今別中間養殖場第2・第3水槽（日本サーモンファーム）



今別中間養殖場の水槽	想定中間魚生産量 (t)	想定成魚生産量 (t)※	稼働時期
第1水槽	80	336	21/1月
第2水槽	40	168	23/10月
第3水槽	180	756	23/10月
計	300	1,260	924t 増加

※ 成長倍率は4.2倍を想定

今別中間養殖場のココがすごい！

- 河川を利用しないので
 - 水利権が不要で事業展開がしやすい
 - 大雨等による河川氾濫の影響を受けるリスクが低い
 - 河川への環境負荷がなく、環境配慮型養殖が可能（ASC認証の取得がしやすい）



II. 2024年6月期 通期業績見通し（連結）



通期業績予想サマリー

2023年9月27日に発表した通期業績予想に変更はございません。

2024年6月期通期予想の全体感（2023年9月27日発表内容の要約）

国内養殖量の拡大などやアジアにおける日本食市場の拡大を背景に、売上は順調に伸びていくことを期待。一方で、前期までの相場高騰の反動や高単価の繰越在庫の払出などから、利益率は一旦調整局面に入ると想定。

（単位：百万円）

	2023年6月期 実績		2024年6月期 通期予想（2023年9月27日発表）		対前期比	
					増減額	増減率
売上高	28,939		32,598		3,659	12.6%
養殖	4,166		5,232		1,066	25.6%
国内加工	8,122		7,831		△291	△3.6%
海外加工	9,582		11,165		1,583	16.5%
海外卸売	7,068		8,369		1,301	18.4%
営業利益（率）	3,187	(11.0%)	1,949	(6.9%)	△1,238	△38.8%
経常利益（率）	3,544	(12.2%)	1,775	(5.4%)	△1,769	△49.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益（率）	2,389	(8.3%)	1,234	(3.8%)	△1,155	△48.3%

通期予想に対するQ1進捗率

	2024年6月期 通期予想	2024年6月期 Q1実績		Q1における特記事項
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	進捗率 (%)	
売上高	32,598	6,849	21.0	—
養殖	5,232	574	11.0	日本もデンマークも水揚げ時期ではないため、売上は繰越在庫の販売分のみ。但し、国内養殖において繰越在庫が前倒しで販売で進んでいるため、その分は例年より進捗率が高まっている。
国内加工	7,831	1,769	22.6	—
海外加工	11,165	2,493	22.3	—
海外卸売	8,369	2,012	24.0	—



III. 参考資料

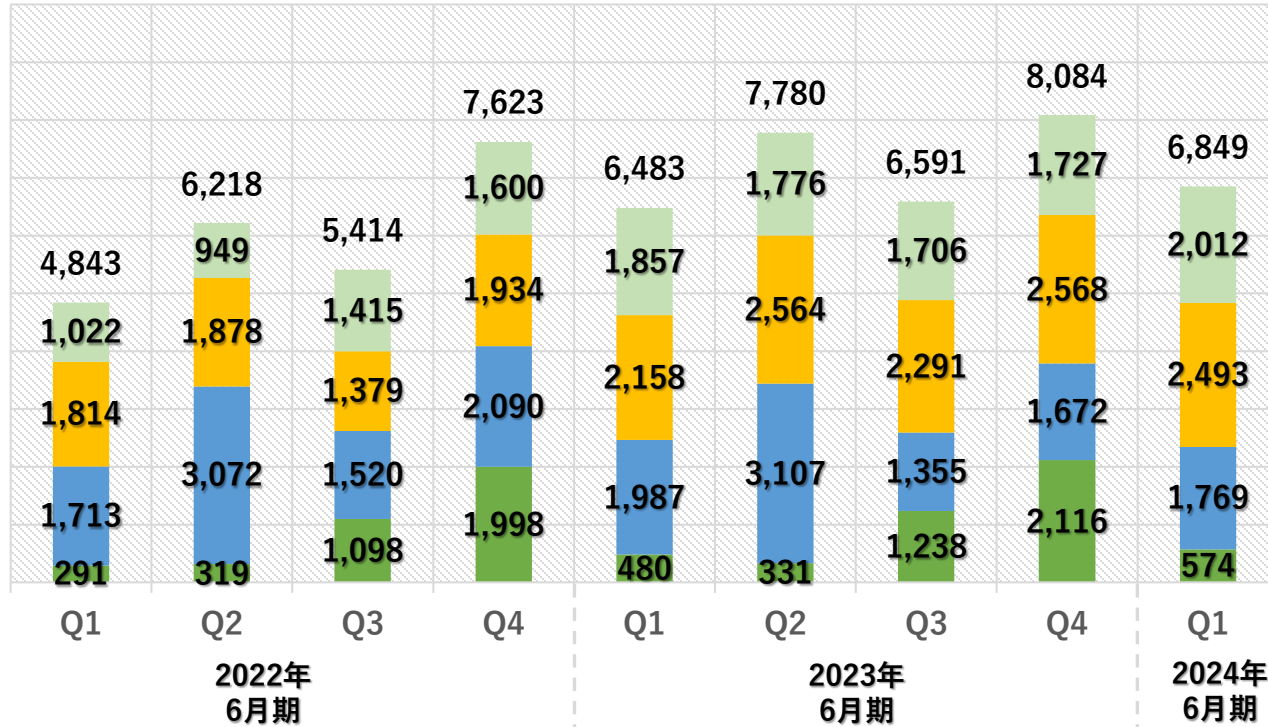


四半期ごとの季節変動について（売上高）

セグメント別 四半期推移（売上高）

■ 養殖事業 ■ 国内加工事業 ■ 海外加工事業 ■ 海外卸売事業

（単位：百万円）



（注）2022年6月期の第1～第3四半期は、監査法人の四半期レビューを受けておりません。

<各セグメントの主な季節要因>

○養殖事業

水揚げ時期に売上が集中する傾向があります。水揚げ時期は国内養殖が4～6月（第4四半期）、デンマークの養殖が10～12月（第3四半期・決算日差異あり）になります。

○国内加工事業

取扱っている製品（いくら、筋子、数の子）の性格上、年末商戦（第2四半期）に売上が集中、年始はその反動で売上が落ち込むという傾向があります。

○海外加工事業

特に大きな季節要因はありません。

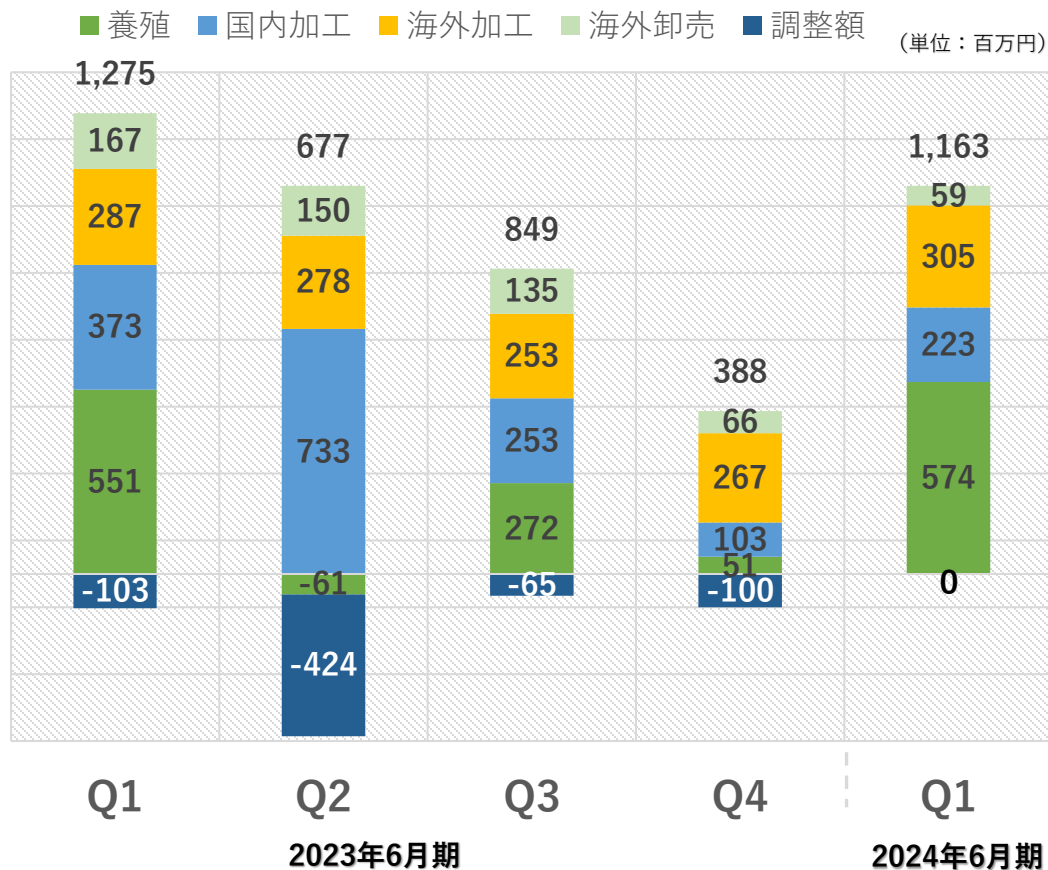
○海外卸売事業

特に大きな季節要因はありません。

（注）上記は例年における主な季節要因を説明したものです。実際の業績は他の様々な要因によって変動することをご承知おき下さい。

四半期ごとの季節変動について（セグメント利益）

セグメント別 四半期推移（セグメント利益）



<各セグメントの主な季節要因>

○養殖事業

Q1

デンマーク子会社（IFRS適用）の年間販売利益の見込額がQ1に一括で計上されます。

Q2

国内・海外ともに水揚げ時期ではないため、販売利益は少なくなる傾向があります。

Q3

デンマーク子会社の水揚げ時期にあたります。販売利益の見積差額（実績値との差）はこの時期に多く計上される傾向があります。

Q4

国内養殖の水揚げ時期にあたるため、国内養殖の販売利益の多くはこの時期に計上される傾向があります。一方でデンマーク子会社の販売利益は少なくなる傾向があります。

○国内加工事業/海外加工事業/海外卸売事業

前頁参照

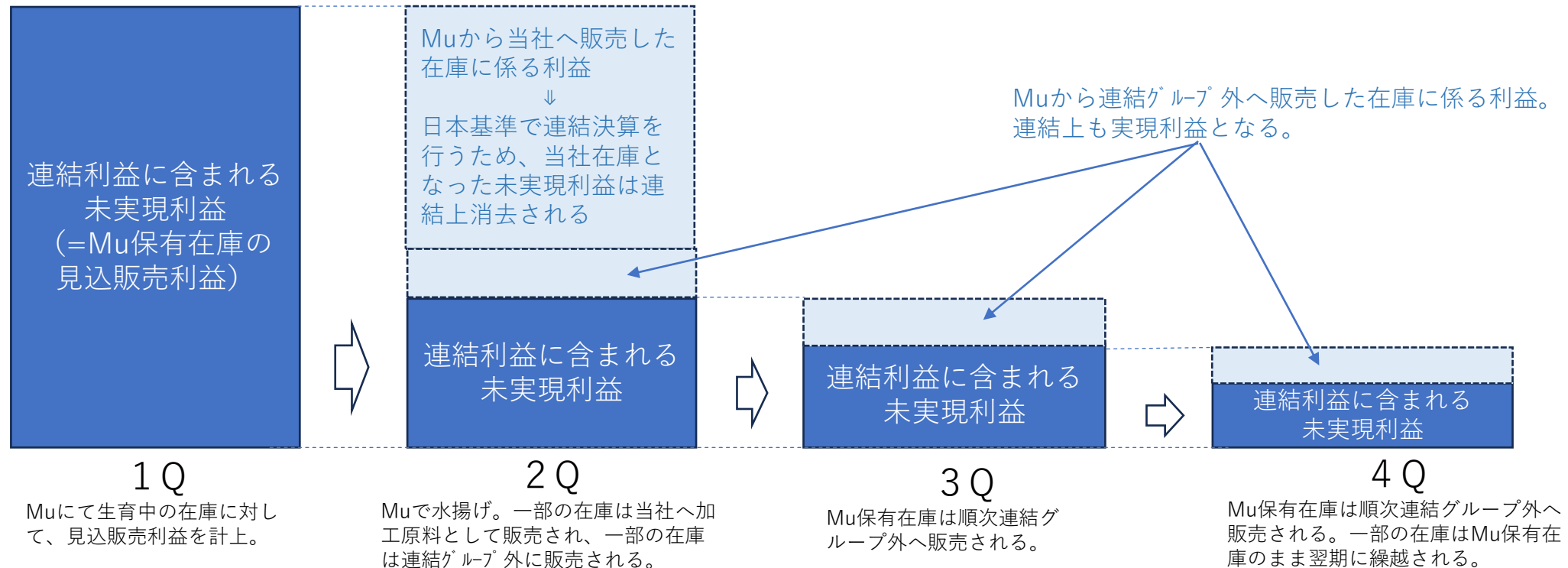
○調整額

グループ内取引によって生じた棚卸資産未実現利益の控除を含みます。これはQ2～Q3に多く計上される傾向があります。

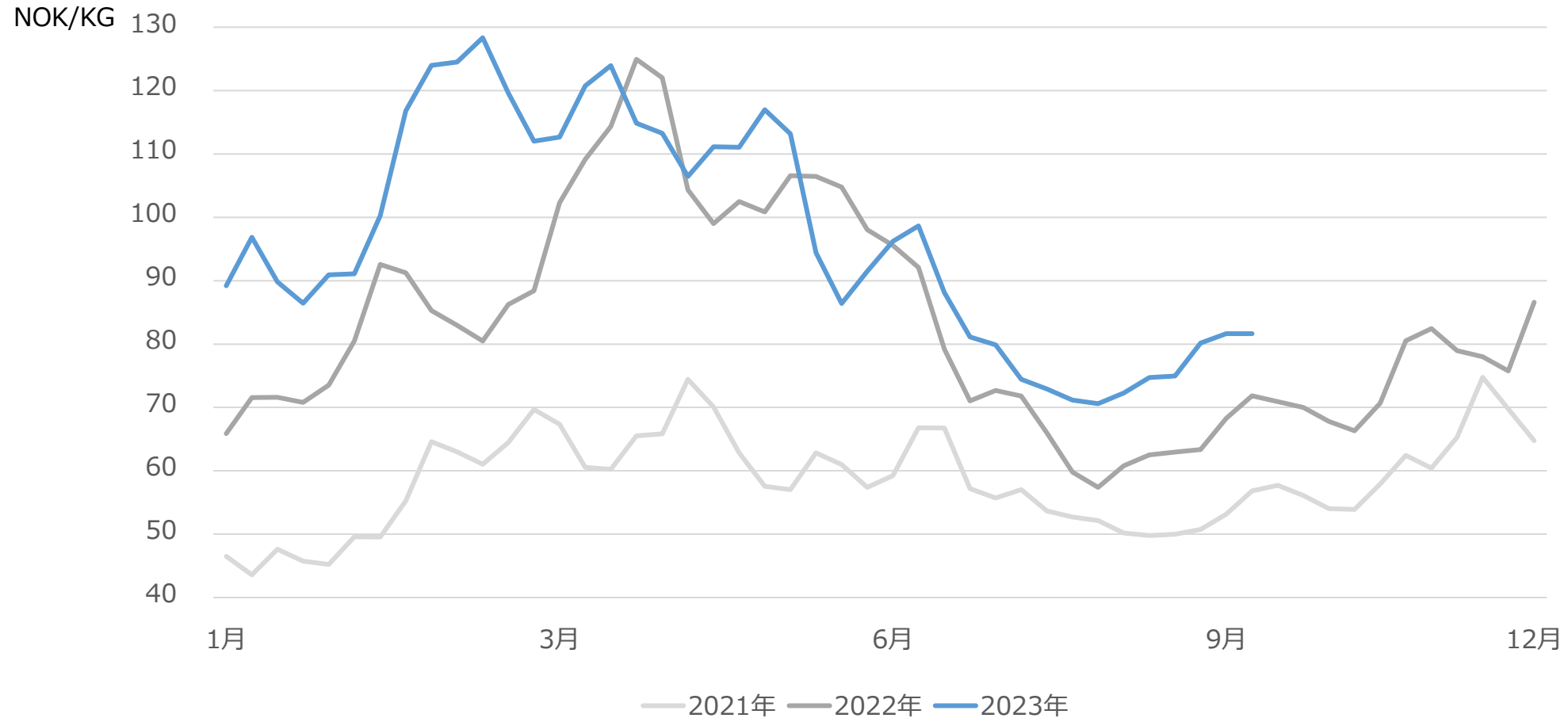
(注) 上記は例年における主な季節要因を説明したものです。実際の業績は他の様々な要因によって変動することをご承知おき下さい。

養殖事業を行うデンマーク子会社における未実現利益の計上

- 養殖事業を行うデンマーク子会社のMusholm社（以下「Mu」）は、国際財務報告基準（IFRS）を採用しており、IAS第41号「農業」に従った処理を行っています。すなわち、保有在庫（養殖魚）を公正価値により評価するため、いわゆる未実現利益（見込販売利益）が計上されることになります。
- 未実現利益は、基本的にはMuで保有する在庫に対してのみ計上されます。
- この処理はIFRS特有の処理です。日本の会計基準の観点からすると、当該未実現利益分だけ、利益が嵩上げされた形になります。そのため、日本基準で作成された決算と比較するには、この未実現利益を控除して考える必要があります。



アトランティックサーモンのスポット価格（オスロ市場）



*上記グラフは、当社グループが養殖しているサーモントラウトとは異なる魚種であるアトランティックサーモンのオスロ市場におけるスポット価格を表示しています。サーモントラウトにはこのような指標はないため、魚種は異なるものの、当社グループでは便宜的に当指標を予算策定や市場トレンドを測る際の参考指標として利用しています。なお、実際の取引価格は国内需給や輸送コストなど様々な要因に基づいて決定されます。あくまで当指標は参考指標としてご覧いただく必要がある点にご留意ください。

ご注意

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、経済動向、他社との競争状況、商品相場動向など潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などの様々な要因により、実際の業績は言及又は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

株式会社 **オカムラ** 食品工業